神奈川県立
公文書館だより

第54号
編集発行　神奈川県立公文書館
〒241-0815　横浜市旭区中尾1－6－1
電 話 045（364）4456
FAX 045（364）4459
https：//archives.pref.kanagawa.jp/
休館日：月曜日、祝日（月曜日と重なる場合は翌日）、年末年始（12月28日から1月4日）

令和七年度 企画展示
「記録が語る昭和の戦争ー公文書館資料でたどるー」
令和八年一月二十三日～三月二十九日

■なぜ、いま、戦争展示か

令和七年は終戦（一九四五年八月）から八十年、そして令和八年は昭和への改元（一九二六年十二月）から百年を迎える年です。この節目において、多くの人が「あの戦争は何だったのか」「昭和前期はどのような時代だったのか」という問いを抱いたことでしょう。こうした問いに答えるために、当館は、あらためて昭和前期の戦争を振り返る企画展示を開催しました。

■戦争で喪失した記録

本展示は全七つのコーナーで構成しました。序章では、戦時・戦後の行政文書をめぐる神奈川の動向を取り上げました。敗戦直後の焼却命令により文書が大量処分されたことは有名ですが、実は戦時にも、紙の再生利用のために文書の積極的廃棄が目指されていました。

本展示で公開した紙の記録たちは廃棄や焼却などの危機を生き抜いてきた貴重なものであるということを、戦争の歴史を振り返るにあたって最初に知っていただきたいと考えて序章を設けました。

■満洲事変から敗戦までの神奈川

第一章から終章までの四つのコーナーは、時系列順に展示を組みました。第一章は満洲事変期（昭和六～十一年頃）、第二章は日中全面戦争期（同十二～十五年頃）、第三章は太平洋戦争期（同十六年十二月～二十年八月）、終章は敗戦から占領最初期（同二十年八月～十月頃）を取り上げました。それぞれの時期における神奈川県下の事件やイベント、行財政の動き、人々の生活などに注目しました。

■戦時下の国策宣伝誌と紙

時系列順に組んだ本章部分とは別に、戦時の雰囲気をよりいっそう感じていただけるようにコーナーを二つ特設しました。コラム①では、内閣情報部（のち内閣情報局）が刊行した国策宣伝誌『写真週報』を複数冊出展しました。

コラム②では、物資としての紙が不足するなかで、その活用方法や質がどのように変化してきたのかという点に着目しました。収蔵資料の紙の厚さを測定してその推移を追うというチャレンジングな試みも展示しました。



『写真週報』各号

■戦争展示で伝えたかったこと

本展示で公開した資料は、序章で強調した通り、喪失の危機を幾度もくぐり抜け、さらにその後も関係者や当館が守り続けてきた貴重な記録たちです。戦争を経験した世代がいよいよ少なくなりつつある戦後八十年のいま、当時の記録とそれらを後世に残すという営為は、戦争の歴史を伝え続けるために、ますます重要な意味を持つでしょう。本展示を通じて、神奈川の戦争の歴史をたどっていただくとともに、歴史資料を収集・保存して後世に伝えていくという公文書館の役割をより深く知っていただけましたら幸いです。

（資料課　井ノ元ほのか）

アーカイブズ講座
「昭和の歴史的公文書に親しむ―戦前期編―」
令和七年十一月二日

当館の秋の風物詩となっている、アーカイブズ講座、今年も開館記念日（十一月一日）に合わせて十一月の第一日曜日に開催しました。

今年のテーマは昭和百年、また戦後八十年にちなみ、「昭和の歴史的公文書に親しむ―戦前期編―」と題し、特に昭和戦前期に焦点を当て、公文書が当時どのように管理され、本県にはどのような歴史的公文書が現存しているのか解説するとともに、貴重な実物資料を実際に手に取って御覧いただくという企画を用意しました。

今回の主眼は、受講者の皆さんに資料の実物に触れていただくという点です。昭和戦前期の歴史的公文書のうち主なもの約二十点を一堂に陳列し、実際にページをめくって、崩し字に近い漢字・カタカナ交じりの公用文、当時の筆記具・印刷方法、あるいは紙の質感やにおいなど、現物の公文書館資料を味わっていただけるよう、資料に直接触れる閲覧体験の時間を、書庫等を見学するバックヤードツアーの中に組み込みました。


講座風景

こうした取組みは当館でも初めてのことで、手洗い用のウエットティッシュを用意するなど例年の運営と異なる点もありましたが、終了後のアンケートでは、「文書の実物を手に取るとやはり迫力がありました」といったように、多くの方に実物の魅力を感じていただけたようです。嬉しいことに、「来年は戦後編を期待しています」とのお声もいただきました。皆さんに御満足いただける講座を提供できるよう、今から楽しく準備を進めたいと思います。

（資料課　関根豊）

収蔵資料展示
「高札の時代」
令和七年十一月二十一日～十二月二十一日


ID2202400002 武蔵国都筑郡勝田村文書

令和七（二〇二五）年度の第二回収蔵資料展示（後期）は、「高札の時代」と題して、当館収蔵高札の展示を行いました。

高札は、木の板に法令などを記して人目につく場所に掲示したものです。江戸時代から明治初期にかけて多くの高札が作成され、当館でもその時期のものを収蔵しています。

高札は、経年劣化で文字が判読しにくくなっているため、今回は、赤外線カメラによる撮影を行い、文字が読める写真を合わせて展示しました。

他にも、高札場に関する資料なども展示しました。

当館所蔵の高札および赤外線撮影画像は、収蔵資料検索システムで公開しています。フリーワードに「高札」と入力し、「画像あり」にチェックを入れて検索してください。

収蔵資料検索システム

（資料課　上田良知）

公文書館のおしごと紹介 収蔵資料の修復

当館の書庫には約八十四万点の資料が収蔵されており、その内訳は公文書、古文書・私文書、行政刊行物・図書等ですが、個々の資料により保存状態は様々です。

傷んだ資料の修復方針は本紙（資料）の状態、利用目的、閲覧の頻度等に応じて判断しています。修復処置をする場合、基本的には最小限にとどめ、できるだけオリジナルの状態を尊重します。今後も劣化が急速に進むことはないと予測できる場合は、現状のままで手を加えないこともあります。

本紙の素材は、大きく分けると和紙と洋紙に大別されます。例えば当館の戦前期の公文書では、和紙と洋紙が混在して綴じられていますが、比較的保存状態が良い和紙に比べ、洋紙は劣化し隣り合う本紙も変色させる等の影響を及ぼしています。

破損や欠損等の修復には本紙の紙質にかかわらず、和紙を使って補修します。和紙の材料の代表は楮（コウゾ）、三椏（ミツマタ）、雁皮（ガンピ）の三種類の植物の内皮（靭皮）繊維ですが、中でも繊維が一番長い楮を主に使用しています。繊維は柔らかく、その一本一本が本紙に馴染みます。薄い和紙を使用すれば、修復した部分の文字情報を隠さず読み取れます。



右から楮の原木、黒皮、白皮
（白皮が和紙の原料）

また、和紙は製造工程で不純物が除去され、中性から弱アルカリ性を示すため、長期保存が可能となっているのです。

後世に伝えるべき公文書館の歴史資料は、すなわち記録でしか振り返れない私たちの過去の営みそのものです。その継承には、自然の力、そして先人の叡智と努力によって支えられています。

（資料課　八巻恵美）

職員ペンリレー 新人職員の想い②

■新人②（ツー）

前号の井ノ元と同じく新人職員として、予防保存を担当している鈴木がお送りします。予防保存担当として、収蔵資料の劣化を遅らせるべく書庫内の温湿度のモニタリング、虫・カビの調査（同定・分析は業務委託）、資料のクリーニングなどを行っています。

■公文書館に至るまで

高校生の頃から文化財の保存や修復に興味があり、大学では掛軸や屏風などの絵画の保存や修復について勉強しました。卒業後は博物館の保存修復を担当する部署に入職し、そこでの業務を通して、文書の保管に興味が湧きました。また、同じ時期に本や紙の修復に関わる機会にも恵まれ、次に働くなら公文書館かな～と考えていたところ、当館の求人を見かけて現在に至ります。



文化財害虫の調査のために仕掛けた
トラップを回収する筆者
（苦手な虫も平気になりました）

■働きながら考えること

設置した虫トラップの回収や棚の清掃を行いながら、書庫に並ぶ資料の背表紙を眺めていると、それらが作成された時代に思いを馳せ、五十年後、百年後、さらにその先の未来に残すためにどうすればいいのか……そもそも人類はどうなるのだろう……といったことを考えています。とても静かな書庫内ではつい気が遠くなるようなことを考えがちです。

■今後の目標

膨大な収蔵資料を保存し将来へ繋げることは到底一人ではできません。当館職員はもちろん、県職員や来館者の皆さまにも「資料を保存する」大切さを知っていただき、ご協力いただけるようなお仕事ができればと考えています。

（資料課　鈴木千春）

照明による文書の劣化とLED化について

文書が紫外線に晒されると、文書のインク等が色褪せたり、紙の黄ばみや変色、紙質の劣化が起こり易くなります。

原因は、紫外線によりインク等の分子構造が破壊されたり、紙の成分の物質が化学反応を起こしたりするためです。

通常の蛍光灯の光には日光の千分の一程の紫外線量があるため、文書に長時間光が当たると文書の劣化に繋がります。

当館の書庫や閲覧室等の貴重な文書を扱う場所では、通常の蛍光灯ではなく、紫外線量の少ない博物館用の蛍光灯を使用して文書の劣化を防いでいます。


紫外線の少ない博物館用蛍光灯

博物館用蛍光灯は各メーカーで既に生産が終了しており、入手が困難になっています。現在は過去に購入した博物館用の蛍光灯の在庫を使用するほか、同等の紫外線量の少ない蛍光灯を購入し使用しています。


展示ケース内に設置されたLED

LEDは基本的に殆ど紫外線を出さないため、書庫や閲覧室等の照明に適しており、博物館用の蛍光灯の代替と成り得ます。

また、LEDは消費電力が少ないことから、環境への影響を抑えることが期待できます。神奈川県では、温室効果ガスの排出量削減等のため、県有施設の照明を令和九年度までに原則LED化することを目標にしており、当館においてもLED化を順次進めています。

当館には通常照明が約千五百箇所近くあり、LED照明は今年度末までに約四百五十箇所となる予定です。文書の適正保管、環境への配慮のため、引き続き令和九年度までを目標にLED化に取り組んで参ります。

（管理企画課　安藤直明）

令和8年度 展示のご案内

◆収蔵資料展示
5月15日（金）から6月28日（日）まで

◆企画展示
「二俣川一〇〇年の記憶
―駅とまちの歩み―」
7月17日（金）から9月27日（日）まで

◆企画展示
「れっつ！こもんじょ
―公文書館所蔵中世文書の世界―」
10月23日（金）から12月20日（日）まで

◆企画展示
（内容未定）
令和9年1月22日（金）から
3月28日（日）まで

令和8年度 講座のご案内

◆古文書講座入門編（A日程）
5月17・24・31日の各日曜日（全3回）

◆古文書講座入門編（B日程）
6月14・21・28日の各日曜日（全3回）

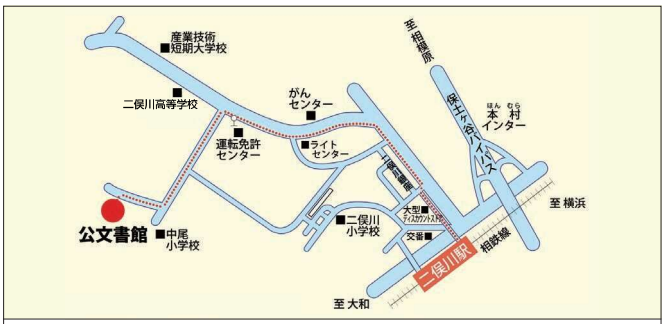
◆夏休み親子講座
7月25日（土）・26日（日）

◆アーカイブズ講座
11月1日（日）

◆古文書講座応用編
11月15・22・29日の各日曜日（全3回）

※詳細は後日当館ホームページでお知らせします。

公文書館へのアクセス



電車の場合　相鉄線「二俣川駅」下車、二俣川駅北口より徒歩17分
二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環二俣川駅北口」行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分
車の場合　「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分
※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。